

Bernhard Lederer

ベルナルド・レデラー

[ブルーCEO / テクニカル・ディレクター]

21世紀の時計作りを目指す
孤高の独立時計師。
スイス時計業界にモノ申す!?

Photo: Ryotaro Horinuchi
Interviewer: Tetsuo Shinoda

1958年ドイツ・シュツットガルト生まれ。1987年にアカデミーに所属。2000年に時計ブランド「blu」を立ち上げる。2006年にトゥールビヨンモデル「ブルー・マジェスティ」を発表する。なお、レデラー氏の隣に座る女性は、奥様でありマーケティング担当者でもあるエヴァさん



2

年前、新ファクトリーを取材する機会に恵まれた。またガランとした状態ではあったが、その分、希望に充ち溢れる夫妻の笑顔が印象的だったことを覚えている。

「ブルーを立ち上げた8年前は年間2500本しか作れませんでした。現在は5000本まで生産できるようになりました。ただし品質をキープできないので、それ以上は作りません。でも、あのファクトリーには、人も機械も増えましたよ。理想の時計作りの環境がようやく整い、針やダイヤル、金無垢のケースやバックルも製造できるようになったので、より自分のポリシーを時計に投影できるはずですよ」

ベルナルド・レデラーはいつもと同様に、情熱的に語りかける。

「新しい時計を作る際、大切にしているのは時代性です。例えばレギュレーターやレトログレードは、それこそ150年前から存在する機構です。しかし、これをデザインや機構によってアレンジするのは、

例えば私が開発したレトログレードは、針の逆回しを可能にしました。地味な進化かも知れませんが、重要性を考えると必要ですからね。21世紀の時計のあり方を考えると、もしかすると今、最も必要とされている機能はGMTかもしれませんね」

インタビューはヒートアップ。ある意味20世紀の遺産ともいえる機械式腕時計という存在に対して、持論を展開する。

「今や時計は必要不可欠な存在ではない。つまり、ドイであり、美術品なのです。

にもかかわらず一部のブランドは伝統ばかりを気にしている、伝統を守ることだけが正義なのではどうか。また、名門ブランドによる技術開発の進化に対しても違和感があります。

確かに時計師である以上、複雑機構にチャレンジしたいという気持ちはわかります。しかし、それをブランドとして戦略的にやってしまうと、時計師自身の個性がなくなってしまう。本来であれば、個々が作りたいものを作るべきなのです。フィリップ・デュフォーやカリ・ヴティライネンらがやっているようにね」

予定時間をオーバーしても、まだしゃべり足りない様子のレデラー。それだけ自分の仕事に自信を持っているということだ。

「1985年にギャラクシーを発表した時、回転するダイヤルを見て関係者は笑いました。しかし20年後に、某有名ブランドからダイヤルが回転するモデルが発表されましたよね（編集部註：数年前に発表された某トゥールビヨンのこと）。これは我々が少なからずインスピレーションを与えたのだと思います。アイデアを真似されたらブランドとして認知されたことの証拠ですから気にしませんけどね」

後半はスイス時計業界に対する意見に変わってしまったインタビューだが、最後に「ブルーと同じように21世紀に向かっているブランドはないのですか？」と尋ねると、ニコッと笑って「ユリス・ナルタン」と即答。技術進化に対する真剣な取り組みに、強いシンパシーを抱いているようだ。